

実践報告

札幌市立元町中学校

(1) 研究内容

研究課題：「人権教育を基盤とした学校づくり等の研究」

- 自立心の獲得を目指し、自他を尊重しながらよりよく生きるための自らの生き方について考える力の育成。

(2) 実践の内容

【実践①】国際理解に関する道徳の実践について

○ ねらい

外国人とのコミュニケーションを通して互いの考えに差異のあることに気づき、他国の文化的背景や意識の違いを理解し、他者を尊敬する道徳的態度を身に付け、共生の在り方について考える。

○ 学習内容

札幌で暮らす外国人の方を授業に招き、生徒と直接コミュニケーションを取るなかで、今後のよりよい生活について考える授業を行った。

- ① 外国人が日本で生活するうえでの困難点を、生徒及び外国人がそれぞれの視点でグループ討議し、発表交流をする。
- ② 生徒の考える困難点と、外国人が抱える困難点に違いがあることを把握したうえで、それを改善するために何ができるか、生徒と外国人が交流しながら討議する。
- ③ 生徒の考えたアイディアについて、良いと思ったものを外国人が評価しながら発表する。



【実践②】PTA 講演会について



○ ねらい

幅広く活躍する社会人の講話を聴き知識を広めるとともに、差別や偏見を乗り越え夢を実現した講師の経験から他者への思いやりや相互理解の気持ちを育成する。

○ 学習内容

PTA が主催する全校講演会に、シンガーソングライターでいわて文化大使でもある松本哲也氏にお越しいただき、いじめや虐待を受けた自らの経験を交えながらミニライブを行った。



- ①事前に、講師の壮絶な半生が映画化されたDVDを教材として学習を行い、薬物乱用防止、いじめや差別、虐待などに負けずに夢に向かって自己実現を果たした講師の姿に触れ、本人を迎える講演会当日の活動に備える。
- ②講演会当日は講師のライブとトーク、そしてリズム体験を通して気持ちを一つにし、質疑応答では生徒の悩み相談にも回答していただいた。

(3) 研究のまとめ

① 成果

- ・ 国際理解に関する道德授業の実践においては、国による文化や生活習慣の違いを超え、他者の気持ちを考え寄り添うという他者理解の態度が生徒の態度に見られたことは成果であった。また、「外国人＝西欧人」と考えることが差別につながることへの気付きが見られたことは大きな成果と考える。
- ・ PTA講演会におけるミニライブにおいては、会場とステージが一体となり大いに高揚感をもって行えたことは貴重な体験になった。ライブ終了後には、生徒から他者に配慮しながらよりよい人間関係を築くにはどうしたらよいのかといった相談があり、講師から悩みを抱える生徒へエールが送られた。また、保護者・地域の方にも講演会に参加をいただき、3者の連携がより深まったことも成果として挙げられる。

② 課題

- ・ 国際理解に関する道德授業では、協力していただける外国人の招致が難航した。札幌市国際交流員（札幌国際プラザ多文化交流部推進課申込）に早めに予約するとよい。
- ・ PTA講演会ミニライブでは、限られた時間での音楽とトークなので、事前に松本氏の生い立ちについて学習しておくことが欠かせない。それを知ったうえで初めてステージと体育館の一体感が生まれるものと考えている。

③ 提言「人権教育のすすめ」

- ・ 体験型や参加型の活動は、関心や意欲の向上・持続に非常に効果的であるので、特にいじめを経験してそこから立ち上がった方のお話は、生徒の心を打ち、目標となる存在となると思われる。
- ・ 偏見や差別のない社会の実現について考えるとき、自分の意識を生活レベルで振り返られる日常での取り組みが大切であると考えている。